

令和4年第11回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和4年11月16日(水) 14時00分
- 2 閉会日時 同日 16時12分
- 3 開催場所 市役所 5F大会議室
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会課長(未来型児童館担当)	
	井 上 英 文
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移りました。

6 付議事項

- 議案第28号 令和5年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について
議案第29号 令和5年度加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について

7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 28 号 令和 5 年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について

(学校教育課長の説明) 加西市立特別支援学校学則第 8 条第 2 項の規定により、令和 5 年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について、別紙のとおり定めたいので委員会の議決を求めます。

要綱の内容についてご説明申し上げます。今年度は、昨年度にご説明した内容から大きな変更はなく、日程の変更のみとご理解ください。加西特別支援学校高等部の入学選考については、要綱に記載しているとおりの「基本方針」「本科における志願者取扱実施要領」「本科における入学者選考実施要領」に基づいて実施したいと考えています。選考方法については、調査書による書類審査、面接、適性検査等を行います。なお定員割れがあった場合、再募集を行うこととしています。

今後の日程については、令和 5 年 1 月 16 日から 20 日正午までに入学願書等を提出していただき、2 月 14 日に面接、適性検査等を行う予定にしています。

議案第 29 号 令和 5 年度加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について

(学校教育課長の説明) 議案第 29 号令和 5 年度加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について、別紙のとおり定めたいので委員会の議決を求めます。

兵庫県教育委員会から令和 4 年 10 月 28 日付文書により、令和 5 年度兵庫県公立学校教職員異動方針が出されました。内容については昨年と大きく変更はありません。教職員異動の基本方針は、加西市の実情に即した公平かつ適切な人事異動を行うことに基づき、前述の兵庫県教育委員会の方針を踏まえ、学校経営の充実を図るとともに本市学校教育の一層の発展を期することとしています。

異動については、「原則として現任校 3 年以上在勤した者」としています。「休職中、療養中、産前産後休暇中、育児休業中、派遣中の者」の異動は、原則行わないことにします。また、市外への転出については、交流希望やその他一身上の都合により転出を希望する者を対象とします。次に、配置換えについては、同一校勤務 9 年以上の者(事務職員と栄養教諭については 5 年以上)は、原則異動を行います。また、3 年以上 9 年未満の者も必要に応じて異動を行います。

また、幅広い視野を持つ教職員を育成するため、初任者を含め全ての教職員に異校種、つまり小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ、小中学校の先生が特別支援学校へというように特色の異なる学校への異動を行います。本人の希望を十分に配慮しながら進めていきたいと考えています。

令和 5 年度から定年延長制度が始まります。現在、兵庫県教育委員会で制度設計が

進んでいますが、人事異動や新規採用職員の任用などに大きな影響があると考えられます。計画的な任用を進めてまいりたいと考えています。

本教育委員会で議決いただければ、今後は教職員異動に向けて準備を進めていく予定です。

教育委員からの意見

- ・特に質問等ではありませんが、先生方の異動は子どもたちの教育にとってとても大事なことだと思います。学校教育課長もよく分かっていることだと思いますが、校長先生の意見や先生本人の希望をしっかりと聞きながら、適切な人事配置をお願いしたいと思います。それから、未来の学校構想検討委員会でも中学校の再編は5年後をめどにと言われているので、学校が統合されることになれば先生の定員が減るのは十分考えられます。その辺りもそろそろ準備に入っていかないと、直前にいきなりというわけにはいかないので、それも含めて配慮していただければありがたいと思います。

9 議決事項

議案第 28 号 令和 5 年度加西市立加西特別支援学校高等部入学者選考要綱について

原案どおり可決

議案第 29 号 令和 5 年度加西市立小・中・特別支援学校教職員異動方針について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

10月24日の前定例教育委員会以後についてご報告します。

10月25日には、朝から公民館・オークタウン加西の在り方検討会が開かれまして、午後には、第2回兵庫県都市教育長協議会に出席するため養父市に行きました。

10月29日には、生涯学習課により加西インター産業団地発掘現場の現地説明会がありました。ここでは弥生時代中期、ざっと2000年以上前の例えば弥生の人々の集落跡が姿を現して、6、7軒の家の跡が確認されました。その竪穴住居ではどこに台所のおくどさんがあったのかというような場所まで特定されていて、私は大変驚きました。

また、1mもあるかないかの浅いところにこういったものが残されていたことにも驚きました。この種の現地説明会としては多らしい 100 人ぐらいの方が来られ、多くの方に興味を持っていただいているのだと思いました。後から知ったことですが、考古学の教授によれば北播磨では既に弥生時代前期と後期の遺跡が確認されていたそうですが、中期については空白地帯になっていたということで、今回それが確認されたということはすごいことだと聞きました。そうした古い時代の加西について皆さんにも興味を持っていただければ幸いです。

同日午後には、市政 55 周年記念式典が行われ、これまで加西市に貢献して下さった市民の方々が顕彰されました。

翌 10 月 30 日には、市政 55 周年記念の一環として、指揮者の西本智実さんを招いてクラシックコンサートが開かれました。会場は満席で、それほど私も詳しくないのですが、大変立体的な演奏だと思いました。楽器の音がそれぞれに際立っており、だからといってばらばらというわけではなく、全体の曲想の方向性が大変うまくまとまっていてすばしかったです。こうして加西市でクラシックの音楽会が開催され、会場が満席になるということを楽しんでいました。多分、皆さんは日頃からあちこち他市に行って音楽を聞いていらっしゃると思うのですが、やはり加西市で本物に触れたいという思いを強く持たれる方々が多いのだと実感しました。

西村さんはパチカンの新春コンサートなどで毎年タクトを振られるような世界的な女性指揮者です。加西市には大変美しい古墳が町の中に残っている、こういうふうにして悠久の時の流れが目に見えるということに大変感動しましたと語られていました。それは最近私が思っていたことでもあったので、その言葉が印象的に残りました。

コンサート終了後に西村さんと少しお話をさせていただきましたけれども、大変気さくな方で、広島大学などでも教えていらっしゃって、音楽を通して子どもたちの感性や論理というものを育てていきたい、子どもたちとそういうことがやりたいですと言われました。まさに STEAM であり、私はぜひ加西市で実践してくださいとお願いしました。

10 月 31 日には定例校長会が行われました。

11 月 1 日には近畿市町村教育委員会研修大会がオンラインで行われました。それぞれの講師がいろいろなセミナーをされましたが、その中でも慶応大学総合政策学部の中室牧子教授がされた「教育に科学的根拠を」と題する基調講演が大変強く印象に残りました。特にそのお話の中で興味をひいたのは、教育の質を高めるには小学校低学年までの幼児教育が大変大事であるということで、長期にわたるシカゴ大学の研究データを紹介しながら、説得力のある内容でした。その先生方の説によれば、小学校低学年までの幼児教育においてきちんと手をかけてもらった子どもたちは、将来に様々な意味で、経済面だけではなく、幸せ感などを含めた社会的な富裕層になるというお話でした。教授は「収益率」という言い方をされていましたが、つまり教育の効果が

高いということだろうと思いました。そうしたデータを提示してお話しされていて非常に説得力があったので、こども未来課にも聞いてもらいたいと思いながら、興味深く聞かせていただきました。

それと、11月1日には第2回脱炭素先行地域の選定結果が公表され、加西市が選ばれました。これは日本全国53地方公共団体から50計画案が提出され、そのうち20件が選ばれたそうです。1回目には兵庫県内では姫路市、尼崎市、淡路市などが選定されています。本当は1回目で選ばれたかったそうですが、加西市は1回目の計画をブラッシュアップして今回の第2回目で選定されました。これは私の個人的な感想ですが、加西市はいわゆる足元の日常への施策——例えば道路整備、防災対策、鳥獣害対策などを着実にやりながらも、ある意味で、地球の未来の在り方にも目を向けて、先進的な、国家的な事業にもきちんと取り組めるようになっていきます。またそれが国から認められるようになったということは、本当にすばらしいことだと思いました。

私が存じ上げているグローバル企業の役員や現場の方からその日のうちにお祝いの連絡があり、「加西市すごいですね。脱炭素先行地域に選ばれているじゃないですか。これは大変なことですよ。」と言われたので、「ああそうなんだ」と私もより一層その価値を認識した次第です。この脱炭素先行地域事業というのは、国の交付金が原則3分の2投入されます。加西市には上限50億円の交付金がひもづいていると聞きました。はっきり言って農村地帯の5万人にも満たない地方都市において、こういうことをきちんと提案していくということは、大変誇らしいことだと思います。

次に、11月2日に市指定研究発表会が西在田小学校で行われました。今回西在田小学校では、兵庫教育大学の加藤久恵教授のご指導を受け、算数という科目を通して主体的に学び続ける子どもの育成に取り組まれました。私も全部の授業を見させていただきましたが、どの学年の子どもたちも本当に自由に伸び伸びと勉強していました。そして、「言うてはいけないことは何もないですよ」、「自分が疑問に思ったことはどんどん発言しなさい」というような雰囲気はみなぎっていて、問いを発見して解決していくこうとする姿を目の当たりにさせていただきました。算数というのは、単に数字で答えを出す科目ではなく、その答えに至る幾つもの道筋があって、それを考えていく学問であり、それを先生方が実践されていてすばらしいと思いました。これこそまさに今我々の取り組むSTEAM教育だとも思いました。

11月3日祝日には第35回加西市民音楽祭が文化ホールで行われました。

そして、11月4日には、史跡玉丘古墳群の整備検討委員会がコミセン視聴覚室で開かれました。先ほどから何回か言っているように、私には分からないことがたくさんあるので埋蔵文化財整理室に聞きに行き、学芸員からレクチャーを受けました。そうしたら、「やはり玉丘古墳は加西市の宝です」と教えていただきました。埋蔵文化財整理室は雨が降ると雨漏りに悩まされているような古い建物で、そういうところに高室石でできたすばらしい石棺がごぞいます。その学芸員の話では、当時のヤマトの大王

の石棺とほぼ同じタイプのもので、近畿でも数えるほどしかない。「これってすごいことなんですよ、教育長」と言われました。それぐらいこの辺りはヤマトと密接に関係のある古代の重要な土地であったということを裏づけているそうです。1500年ぐらい前の古墳時代に、加西市はそうした歴史の舞台になってきたところです。それを広く知らしめる展示場がないということは大変寂しいし、問題だと最近強く思っております。そういうことも提案していきたいと思ひ、今研究しているところです。

あと、11月5日には「北部公民館祭り ふるさとの祭典」が開かれました。公民館隣の泉中学校の生徒たちが、当日も含め祭りの運営に参加してくれて、地元のおじちゃん、おばあちゃんというような高齢者の方々と一緒に、公民館祭りを盛り上げてくれていたので、感動し力強く感じました。

11月7日には職員採用試験委員会がありました。

そして、11月10日には、文化ホールで播磨の国風土記講座が開かれました。国文学者の光田和伸先生による播磨の国風土記講座は10年目に入りました。今年は地元ゆかりの大歳神がテーマということもあると思うが、いまだに130人近い受講生が市内外から講座に参加されております。これはすごいことです。先生は姫路文学館でもずっと講師を務めてこられました。そちらの学芸員からは「光田先生の講座が唯一黒字になる講座なんです」と聞いたことがあります。

皆さんもそうかもしれませんが、私は子どもの頃から神様と言えば大歳さんと思ひて育ってきました。この神様は2100年ぐらい前に活躍をされた出雲神ですけれども、それにもかかわらず日本の正史を記したとされる日本書紀や天皇家のために書かれた古事記からも、ほぼ消されてしまった不思議な神様だそうです。明治の廃仏毀釈などいろいろなあおりも受け、元々特定の神主さんがいませんので現在、日本国内に百社ぐらいしか残っていないそうです。そのうちの約50社が加西市に残されているというのは、すごいことです。加西市の神様かというぐらいなんです。これはなぜなのかという謎を、先生は鮮やかにアカデミックに読み解かれています。それで10年たっても130人近い方が来られており、三木市から来て質問されている受講者もいらして、なかなか面白い講座でした。

11月11日には市指定研究発表会が善防中学校で行われました。善防中学校では2年間にわたって、京都大学大学院教育学研究科の奥村好美先生が提唱されている「深い学びを評価するパフォーマンス課題」というものを追求されてきました。実は授業だけを見ても「これ何、普通の授業と何が違うの」と思ってしまったのですが、子どもたちの記述をのぞくと「この子何かすごいことを書いている」と気づきました。それから、奥村先生の講義を聞いて、授業を見るだけでは分からなかったパフォーマンス課題のキーワードというのは、「本質的な問いかけをどう見つけるのか」ということなのだ、と気づかされました。また、善防中学校の先生方は主体的に学ぶことや人間性豊かな生徒の育成を目指して、「逆向き設計論」に基づき教科の枠を超え、あらゆる教

科で授業づくりの研究を進められたということが、よく分かりました。

11月13日には善防公民館まつりでした。空模様が崩れる中でしたが、この4月に着任された新館長の半年間の頑張りを見せていただける公民館まつりで、大変うれしく思いました。特に北条高校、善防中学校、下里小学校の児童生徒が参加してくれたことで、公民館が地域のコミュニティの核となっている様子がうかがわれ、以前との違いを感じました。

その後、この日はそのまま市役所に戻り、障害者枠での職員採用試験の2次面接を行いました。14人の様々な障害を持つ方々が2次に残っておられて、それぞれの個性と良さを持っています。私は面接官でありますけれども、内心では「できれば全員採用できないものか」と思いながら面接させていただきました。加西市には加西特別支援学校があつて、18歳までは学びの場を確保してあげることができますが、やはりその子どもたちがその後どう生きていくのかということこそ大変難しい問題だと思っています。それで、こうした面接では、何とか全員採用できないものかと思い、夕方まで面接をしました。

11月15日には、富田小学校で開かれた加西 STEAM 教育研修講座に参加しました。タイトルは「STEAM 的な切り口で IT リテラシーについて学ぶ」でした。IT リテラシーとは、情報をいかに自分の目的に応じた使い方ができるかという能力のことだと思います。でも、その全体的なスキルというのは特別なわけではなくて、IT であろうとなかろうと、想像力、イノベーション力、批判的思考、問題解決力といった力が大変重要であると先生は言われていました。

講師の吉田理子さんは50代の女性講師で、長いこと IT 業界で働いてこられたそうです。でも、吉田さんは IT 機器というのはあくまで道具であると明言されておりました。そして、講座には若手の教師を中心に来ていらして、授業の後に聞いた講義では、加西市のそうした若手や中堅の教師に対して、吉田さんは「子どもたちに21世紀型スキルを身につけさせる教育は、自分の受けてきた教育とは違う教育なのだとこのことを頭に置いて理解することが必須だ」と語りかけていらして、そのことは私にとって大変心に残りました。

同日夕方には、管理職登用2次試験の激励会がありました。ちなみに今年度管理職登用1次試験は、私もびっくりしましたが、加西市では教頭、校長ともに全員が受かっております。つまり加西市の先生方はみんなよく頑張っておられるということです。ただ2次でも全員が受かるということではないので、皆さんに頑張っていたきたいと激励させていただきました。

教育総務課長兼給食係長

お手元の ONE DAY STEAM について報告します。昨年に引き続き、今年は第2回 STEAM フェスを開催します。11月23日祝日、アステシアかさい1階から4階の各フロアでプ

プログラムを予定しております。最初にセレモニーを行い、その後、13のワークショップを設けています。今募集中のワークショップや当日参加が可能な体験ブースを用意していますので、教育委員の皆さんもご参加いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(教育長の発言) ずっと準備はされていましたが、発表が少しおそくなってしまったので、皆さんのご予定も入っているかもしれませんが、首長部局も一緒に、今年はよりプログラムを充実させて大変面白い試みが多々あります。どうか周囲の方にもおすすめていただきたいと思います。子ども連れ、お孫さん連れでも来ていただけるよう情報発信していただければ、ありがたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

教育委員からの意見と教育総務課長の回答

・少しだけ質問なのですが、前は本当に短時間で参加予約が埋まってしまったと聞いています。今回の予約状況はいかがでしょう。

(回答) 先週の土曜日から予約を開始しており、応募ブースはものによって予約が埋まっているものもありますが、まだ半分近く予約が空いているところもあります。今回、ブースがかなり増えましたので、まだまだ予約は大丈夫だと思います。よろしくお願いいたします。

学校教育課長

学校教育課からはコロナの状況と小中特別支援学校における学校教育活動についてご報告申し上げます。

まず、コロナの状況については、11月に入り中学校1校で学級閉鎖を行いました。ただ全国的にコロナ感染は増えている状況で、少しずつ報告を受けている状況ですが、学校における爆発的な感染というのは今のところございません。昨日の教頭会でも教育部長から言っていただきましたが、学校教育活動につきましては、基本的に新たな取組や新しい感染対策というよりは、今やっていることを基本としながら教育活動の充実や推進を図っていく方向で、積極的にやってもらいたいとお伝えさせていただきました。コロナ禍において常に申し上げてきたその学年でしかできない教育活動を常に重要視しながら、今までの経験を踏まえ、学校で工夫しつつ進めてもらうよう申し伝えたところです。

これまで1か月間の具体的な教育活動について報告します。

まず、前定例教育委員会のすぐ後に、小学校では修学旅行がありました。1名だけ欠席がありましたが、それ以外の子どもたちはほぼ、当初に予定していたとおりに出席することができたという報告を受けています。大変天気もよく、近年まれに見る良い

状況での修学旅行だったと聞いています。最終となった小学生を含め、本年度も春から始まった修学旅行は小中特別支援学校(小学部、中高等部)の全てで予定どおり終わったことをご報告申し上げます。

10月に入りオープンスクール、小学校の音楽会や中学校の合唱会が続いています。多くの小学校では今週末や来週末に音楽会や学習発表会を予定しており、感染対策をしながら3年ぶりにオープンな会にする学校もあれば、まだまだ配慮しながら行う規模の大きな学校もあると聞いています。できるだけ多くの保護者の皆さんに、子どもたちの日頃の学習成果を見ていただけたらと思っています。

市指定研究発表会については、先ほど教育長からもありましたが、ご臨席いただきどうもありがとうございました。11月22日には、賀茂小学校で播磨東指定の研究会も兼ねて、道徳教育の市指定研究発表会があります。またよろしく願います。最後に、トライやる・ウィークについて報告させていただきます。通常、トライやる・ウィークは、県の施策の中で行っているもので、5日間事業所に出向いて体験をしておりましたが、一昨年、昨年は規模を縮小しながら学校が中心となり、地域で学ぶトライやる・ウィークをコンセプトに行いました。本年度はさらに一歩踏み込み、中学校長会でも積極的な意味でSTEAM教育の狙いを取り入れた取組をやってみようと言ってくれましたので、地元企業インターワークを主に置いたトライやる・ウィークを開催しました。というのも、通常5日間の事業体験はなかなかしにくい状況があることや校区によってなかなか協力を得にくい事業所があったからです。

本企画の目標背景については、地域課題を克服しようと努力する大人たちの営みを目の当たりにして、その姿に子どもたちが共感し、それを越えるためのアイデアやたくましさを持つ子どもたちを育成することを目的としました。特徴としましては、地域を支える企業や自治体と協働して本物の地域課題に取り組むことで、資質能力を育成しようと考えました。少し分かりやすく申し上げますと、企業7社、市関係5事業所にご協力いただいて、それぞれの学校で原則連続5日間の日程で、各事業所あるいは市の事業所、例えば教育委員会では市立図書館にお世話になり、各事業所がこういった活動や取組を行っているかを聞いたり、自分たちで調べたりという体験をさせていただきました。

その上で加西市総合計画には四つの視点があるのですが、それを踏まえたミッションを子どもたちに課しました。これは動画に登場した市長から投げかけていただくというコンセプトで行い、加西市の元気を10倍にするため、インター先の企業や事業所と力を合わせて、子どもたちがインター先の職員またはインター生という立場になって、加西市元気10倍プランを企画しなさいというミッションを市長から頂いたということです。最終、今日の午前中に善防中学校が行いトライやる・ウィークは終わりました。学習の流れについては、民間先選びから始まり、自己紹介、ミッション、プレゼンというような流れで、それぞれの学校が行いました。

実際に子どもたちの発表については、どのように加西市の元気が 10 倍になるのか、何をして、その結果どのように元気が 10 倍になるのかをまとめていました。具体例を挙げますと、神戸大学農学部に行った子どもたちは、新ブランド加西牛を創出してみてもどうかと言ってくれました。それから、例えば伊東電機に行った子どもたちは、パワーモーターを使った野菜や果物の自動販売機を製作してはどうか、またヨドブレに行った子どもたちは、クラウドファンディングを使ってヨドランドをつくって現地企業や地域の元気を 10 倍にしてはどうかというようなことを挙げてくれています。そのほか、きてみて住んで課や産業振興課などからは、子どもたちから市行政への提案として加西笑顔で喝采プロジェクトという催物も提案してくれたと報告を受けています。

今後、子どもたちの提案は全国アワードに出される予定ですが、その前に各中学校で何人かの子どもたちのグループを選出した上で、一度、市で保護者、また市長、副市長、教育長を含めた市の管理職の方々に中学生の提案を聞いてもらう機会を取りたいと思っています。計画段階からそうした話があり、日程はまだ決まっていますが、学校と教育委員会、このプロデュースした者とともに今計画しているところです。なかなか今すぐには具体の姿は見られないのですが、動画等も作成している最中ですので、いずれ教育委員の皆様にもそうした姿を見ていただけたらと思っています。よろしくお願いします。

教育委員からの意見と学校教育課長の回答

- ・ご説明ありがとうございます。従来のトライやるは職場での活動を体験してくるといものから、今度は新たに自分で課題を持ち、プレゼンをしていくという新しい項目も加えて子どもたちが体験をするということで、今、加西市教育委員会が推奨する STEAM に本当につながっていく取組だと思えます。今後ともこのように STEAM と絡めて前向きに行うことで、子どもたちにとってプラスになるトライやるになるようにしていただきたいと思えます。よろしくお願いします。
- ・11 月の善防中の研究発表会で中学のある校長先生が「先週、子どもたちがプレゼンしてくれたんや、とっても良かった」と、今年のトライやるに感動されていました。特に福祉関係など、今はトライやるの受入れが難しい状況の中、少し見方を変えて、今まで企業にお世話になるばかりだったものから、企業に対して子どもたちが提案をしていくという考え方は、すばらしいと思っています。ずっと言っていることですが、STEAM というのは 20 年、30 年後の地域や日本の社会を支える子どもたちを育てるということですから、今の子どもたちの本当に純粋な視点、例えば「ちょっとおかしいぞ」とか、「ここをこうしたらいいんじゃないか」という素直な疑問や提案こそが、重要かと思えます。それで、今年のトライやるはとても良かったですし、

これを続けていただけたらと思いました。ありがとうございます。

- ・私の会社のほうにもトライやるで子どもたちが来てくれたことがあります。子どもたちはわくわくした思いをいっぱいにして来るのですが、仕事だけを見て作業をしていても、本当に何も分からないと思います。でも、自分たちでどうしたら加西がよくなるだろうと考えるというやり方をしていくことで、当の子どもたちがもっといろいろなことを考えていけるでしょうし、それを考えただけで何か私たち大人もわくわくするなと思います。これからもどんどんそのように取り組んでいってほしいと思います。ありがとうございます。

(回答) 従来のトライやる・ウィークも大変値打ちのある取組です。私は小学校籍の教員ですが、中学校の教員といろいろ話をしながら、STEAM教育のエッセンスを用いて校長と共に今回の提案型の取組をつくり上げました。しかし一方で、子どもたちが事業所で5日間お世話になる従来のトライやる・ウィークについても、子どもたちが朝に家を出て、事業所へ行って、帰ってきてというように、1人1人が自立しながらやるという意味で値打ちがありました。ですので、その辺を融合するようなことも考えていかないといけないと思っています。それで、今度また地域から事業所に協力をお願いに上がることもあろうかと思っていますので、その節は機会がありましたらよろしくお願いします。

- ・それに関してですが、昔は子どもたちが経験上、親の働く姿を目の前で見えていました。特に農業などでは一緒に汗を流したりしていたのが、今は機械化がどんどん進んでしまい、子どもが「田んぼ手伝おうか」と言っても、親から「もういいで」と言われてしまうような風潮の中なので、子どもたちは親の働く姿を見ることや働くことの厳しさ、また人生をつくるのに大事なところなどを案外体験できていないんですよね。そういうことをトライやる体験して、社会の仕組みを知ると同時に、自分の親が毎日こんなに苦勞して働いてくれているということで、親への尊敬も十分育ってきました。それで、今学校教育課長も言われたように、1週間という長い期間続ける、しんどいことをするというのも、大事なことなので、そこをうまく融合できていけたらと思います。ありがとうございます。

- ・今回は自分の息子も参加させていただきました。トライやるに参加することで、中学生の考えて取り組む能力が、本当に良いほうへ変わってきたと思います。前だったら言われないとしなかった子どもたちが、どういうふうにして加西をよくしていかないといけないのかというミッションについて、参加した息子を初め、みんなで探究をして、本当にSTEAM教育になったのではないかと思います。だから、昨年、中学校について暴言ではないですが、意見をさせてもらいましたが、そのときと比

べたらパワーアップしてすごいなと感心しています。本当に中学校が変わってきていると身に染みて分かりましたし、このプロジェクトをこのまま続けていけばもっと STEAM が良い方向へ進むのではないかと思いますので、継続してお願いしたいです。今日自分の息子を見た感想ですが、中学生たちが自分で考えるようになってきたと思いますので、またよろしくお願いします。

(回答) 午前中に息子さんが発表していらしたのを私も見てきました。教育委員が言われたように子どもたちの考える力もそうですが、既に教育委員がご心配されていた中学生の Chromebook の活用についても、企業のほうからはそのスキルの高さに感心をされていました。実施スケジュールの3課に課題プレゼンというものがあり、前日に企業所に行った上で、学校で2時間ほどかけてこういう企業だという説明を課題として作るのですが、子どもたちは Chromebook で1時間半ほどですぐにプレゼンを作り上げていました。企業からはそのプレゼンは大変すばらしく精巧なものだったと感心されていましたし、その後のそれぞれのグループでコラボレートして提案を作っていくという学習でもなかなか力がついているということも言われました。

確かにトライやるはいろいろな子どもたちの状況に合わせてやらないといけないもので、つまり学校ではできなというか、以前からトライやるだから参加できるという子どもたちもいました。そういうことへの配慮もしていきたいと思っていますので、やり方をどう融合させていくかは、教育委員も言われたように今後の課題として考えていきたいと思っています。ありがとうございました。

- ・見ていると、中学生ほぼ全員が Chromebook を使いこなしているのがよく分かります。それをどう生かしていくかは教育委員会次第だと思っていますので、よろしくお願いします。またいろいろ調べながら、私も提案していきたいと思っています。

(教育長の回答) 確かに去年の学校参観のときと、Chromebook の活用の仕方は思いっきり変わっていて、驚きました。ご意見ありがとうございました。

こども未来課長

令和5年度施設入所申込状況について報告します。10月に来年度一次申込みを済ませており、全体で248名の新たな入所申請がございました。ちなみに昨年は274名で、ゼロ歳児76名、1歳児69名、2歳児43名で、特に1歳児において、令和4年度69名、令和5年度50名と、19名の大きな違いがございます。これは今年度途中にたくさん入園者を受け入れた影響が、一定出ているのではないかと考えております。また、少子化による出生数の減少も進んでおり、今年度の出生数は、ゼロ歳児176名、1歳児190名、2歳児240名です。11月1日現在では全体で1,274名の入園者であります。来年度4月当初は1,195名の入園者が予定されています。今後も増える見込みで、年度途中も順次増えていくと思われるため、前定例委員会でも報告したように小規模

園2園の開園に当たり、11月10日に審査会を行って申請書の審査をしました。

その中で人材の確保が課題となっていますので、今後、確保対策を進めいくため、教育委員さんからもご意見いただいたアンケートを現在進めております。どこに的を絞って対策を打てばいいのかというところで、もう少し深掘りして提案できたらと思っています。

教育委員からの意見とこども未来課長の回答

- ・大体いつ頃にその原案は見られそうですか。

(回答)今のところ年内に作業が進めばと思っています。

- ・その結果からどう対策していくかですね。

(回答)大体ネットなどの情報を見ますと、想像の範囲なんですけども、質問の形やどういう質問に導くのかというところで今思案しているところございます。

- ・確認したら「これもやりたい、これもやりたい」というモチベーションを上げるような対策をしてあげたほうが、効果は良いのかもしれませんが。「これがあかんから、これもあかんから」というと、逆にモチベーションは下がってしまうので、それを上げるようにやってほしいことを絞っていくほうが、いいのかもしれないですね。

(回答)他市にないような案ができればいいと思っています。

教育委員会課長(未来型児童館担当)

加西市未来型児童館整備基本構想策定業務の進捗状況について報告します。

これまで各種計画策定時に市が行ったアンケートなどを参考に、加西市の子育てに関する現状と課題の整理を行い、今後の児童館整備に参考となるよう、全国各地の類似施設における機能など先進地事例の抽出作業を行っています。その概要について報告させていただきます。

加西市の子育てに関する現状と課題について概要をまとめました。人口についての計画でも言われることですが、加西市の人口は年々減少し少子高齢化が進んでいます。また、大学進学や就職のときに市外に転出する人が多く、15歳から24歳の人の流出が進んでいます。子どもを産む世代の女性が減っているだけではないと思いますが、ここ数年の出生率は200人を下回っており、令和2年度の出生率は1.17ということで人口減少が進んでいます。

続いて、子育てに関する施設については、全体の7割の乳児や園児は、こども園に入所しており、小学校の学童保育園を希望する園児は、定員の約9割となっています。

市民のニーズと現在の市の施設の状況については、以下のとおりです。大人から見

た子育て施設については、出産から高校生までの子育てに関する相談窓口は、福祉会館、市役所、総合教育センターなどいろいろな場所で相談する場がありますが、施設が分散している状況です。保護者がつながる場については、乳児や幼児まではほくぶキッズ、ぜんぼうキッズなどがありますが、小学生以降の保護者がつながる場所はありません。預かりの場については、乳児や幼児はこども園による一時預かり、小学生は学童保育、病気の乳児や児童は病児・病後児保育所等があります。

子どもから見た施設については、休日や放課後における居場所として、乳児や幼児については、有料ですがアスモがあります。小中高生にはアスティアかさいがありますが、学校以外で屋内運動施設はほとんどありません。また、学校に行けない子どもたちの居場所がないように思われます。

教育については、学校で STEAM 教育が進められていますが、実際に体験できる場は十分にあるわけではなく、11月23日にアスティアで行われる ONE DAY STEAM フェスといったイベント等でしか体験できないと考えられます。こうした状況において、国では全ての子どもの居場所づくりを求める児童館ガイドラインが改正されたり、県では理数教育の充実やプログラム教育、兵庫体験教育が進められています。

このようなことから、加西市の子育てに関して三つの課題を挙げています。一つ目は、子育てに関する相談窓口が分散しており、ここに行けば子どもに関する相談ができるといったように、窓口を集約する必要があるのではないかということです。二つ目は、児童生徒の放課後や休日の居場所づくり、また様々な年齢層が活用できる施設が必要ではないかということです。三つ目は、学校だけでは対応できない STEAM 教育を体験できる場が必要ではないかということです。これらの課題から未来型児童館を考えていきたいと思っています。

続いて、子ども・子育ての総合的な拠点施設に関する事例です。

まず、事例1の神奈川県川崎市の川崎市子ども夢パークについては、約1万平米の敷地の中に200平米の児童館が建っており、全体的に子どもの遊び場や居場所になる児童館として、広い敷地内で屋外空間の遊びを充実させています。事例2の東京都日野市たまだいら児童館ふれっしゅについては、建物内に運動施設や音楽施設を設け、中高生が放課後や休日の活動ができるような施設を充実させています。事例3の愛知県小牧市のこまきこども未来館については、商業ビルの2階から4階のフロアを使って、2階は中高生、3階は小学生、4階は幼稚園児等が使えるように整備しています。続いて、事例4の埼玉県和光市の和光市総合児童センターについては、一つの施設内にこども園、プール、総合児童センターなど様々な施設を複合させた施設になっています。事例5の大阪府高槻市の高槻こども未来館は、史跡公園の隣接地に建てられ、遊び場として民間のプレイホールという施設があります。

最後に、その他 SDGs や ICT の体験施設、STEAM 教育を実践する場としての児童館については、SDGs 体験施設であるイトウチュウ SDGs スタジオキッズパーク、ICT 教育施

設としてスカピア、STEAM 教育の実践の場としてパナソニックセンター東京 AkureE などがあります。これらは児童館というより、科学体験コーナー的なところがありますが、こうしたことが常時できるような施設やコーナー等の整備も、合わせて考えていく必要があるのではないかと考えています。

今後の予定としましては、未来型児童館にどのような機能が必要か、どのような整備をしていく必要があるかなどについて、ワークショップを3回実施します。第1回目は11月20日に市役所5階大会議室で、小中学校保護者を対象に、子育てに当たって感じている課題、未来型児童館に期待する役割と機能について話し合う予定にしています。そして、先ほど先行地事例として紹介したこまきこども未来館への視察を考えており、日程の第一希望は12月15日、第二希望は12月16日ということで小牧市にお願いをしています。しかし、こまきこども未来館はできたばかりの施設で全国から視察依頼があるらしく、日程についてまだ了解いただけていない状況です。決まり次第、皆様に報告しぜひ一緒に見てもらえたらと思っております。

教育委員からの意見と教育委員会課長(未来型児童館担当)の回答

- ・現状と課題をご説明いただきましたが、小中学校の子どもたちの放課後や休日の遊び場や、特に学校に行けない子どもたちの居場所が不足していることは、本当に重要な課題だと思います。そういうところでこの複合施設が必要であるということなので、現状これに関して取り組まれているいろいろな児童館の視察をして、実際に生の経験をした上で、少しでも良い未来型児童館にしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

- ・ここでは市の現状がたくさん書かれているのですが、加西市行政は何か一つのビジョンを持ってこの児童館を造るのでしょうか。ここで言うと、放課後や休日の子どもの遊び場とか、学校に行けない子どものフリースクールとか、これを全部やったらもりだくさんになるのではないですか。また、小学生の保護者のコミュニケーションの場をつくると言えば、「では、PTAは何なのか」という話にもなり、そういうことも踏まえて未来型児童館をつくるとなると、私もまだよく分からないところがいっぱいあり、市として何をビジョンとしてこういうものを建てるというような優先順位はあるのですか。

というのも、この課題全部に取り組んでやろうと思うと、いろいろな部署からの現状課題が入ってきて、そういう機能を入れるのも大変だし、入れたとしても中途半端に終わってしまいそうな気がします。この現状から見ると、加西市として何を一つのテーマにして未来型児童館を作っていくのかというのが、私にはあまり見えてこないような気がして仕方がないのです。もし現状でこれをテーマにというもの

があれば、教えていただけますか。

(回答) 現在の課題としては申し上げた三つの点で、保護者のつながり、子どもの放課後の居場所、STEAM教育の体験の場ということで、現実にこれらはニーズがあっても整備がされていない現状です。この中でどれを優先するかについては、また内部で話し合いをしたいと思っており、今これが一番というものまでは言えません。

- STEAM教育についてはデジタル田園都市構想で今STEAMラボを整備していますよね。公民館や小中学校に行けばできるのに、未来型児童館でもSTEAMとなると、少し反対があるのではないかと思います。

(教育長の回答) STEAMの考え方をつなぐ機会ということが前提にありますので、それを未来型児童館でどう実現するかということは、また別になるかもしれません。これを見ているとやはり基底にはSTEAMが横たわっているのだろうと思うのですが。

(教育部長の回答) 教育委員ご指摘のように、中途半端で変な施設になるのは基本的によろしくないということは、当然認識しております。そのためにこういう整理を行っているわけです。そうした整理を行った上で、現在の加西市公共サービスにおいて何がどのように過不足しているのかという状況を把握したものが、今日ご説明した資料というわけです。ただ、未来型児童館がこの全てを賄えるのかといえば、今度はいろいろな機能を欲張り過ぎて、全体のバランスを崩すということにもなりかねません。それで、市全体として既存施設や既存機能と今回整備する施設に入れる機能とでバランスを取っていくことが、基本になるかと思えます。

教育長の言われたSTEAMの概念は当然入るものとして、その上のことです。その中で考えられるのは、療育や福祉的な機能、学校や公民館とのつながりのような機能など、想定されるものは複数ありますが、ただそれを踏まえた上でどれかに絞らなければならないと考えています。ですから、今後はその作業として、本日は説明しませんでした。ワークショップを通して中高生や保護者の声を聞きながら市民ニーズを把握し、庁内の今申し上げた福祉課や教育委員会各課など、庁内の検討会議を別途設けて整理をした上で、最終的に児童館にはこの機能を備えるというふうに詰めていきます。

- ぼやっとした話で申し訳ないんですが、使うのに敷居の低いものであるべきで、子どもにとって少し抵抗があるなというのは、まずいと思うんですね。子どもたちが「行ってみたいな」「あそこへ行ったら面白そうや」というような要素があるといいと思います。

もう一つは、親が子どもをそこに預けた上でちょっと一緒にお茶でもしながらゆっくり話をしたり、意見交流ができるという施設で、まあ公共の施設でそういうのは難しいかもしれませんが、やはり子育てで悩んでいる親御さんは結構多いですか

ら、ゆったりと話をしてほしいという方もいらっしゃいます。高槻では相談室のような部屋が結構並んでいますが、「相談室」と書かれると「何か入りにくいな」と思うものです。そういう施設のあり方やネーミングも大事になってくるのではないかと思います。

(教育部長の回答) その辺には配慮しながら進めたいと思います。やはり同じような子どもを抱えて、同じ悩みを共有できる親御さん同士が接したり、意見交換できるような場所、それはカフェゾーンみたいなものかもしれませんが、そういうものがあるのも良い姿だと思っています。

- ・例えばぜんぼうキッズやほくぶキッズに来られる親御さんに、今の施設のいいところやこういう場所があったらどうかというようなことも聞いてみると、ヒントになるかと思います。

生涯学習課長兼市史文化財係長

まず、報告の前に、これまで行われた南部、善防、北部公民館まつりにおいては、お忙しい中教育委員の皆様にご足労を賜り、ありがとうございました。残るは月末に中央公民館まつりがございます。お忙しい中ではございますが、足をお運びいただけたら幸いです。よろしく願いいたします。

それでは、生涯学習課から3点報告をさせていただきます。

初めに、子ども消防・防災体験 in うずらのについて報告させていただきます。12月3日土曜 10時から12時半の予定で、加西市女性団体連絡会と加西市連合婦人会の主催する子ども消防・防災体験 in うずらのを開催いたします。女性団体連合会は、子育て家庭への支援を一つの事業の一環、活動目的として挙げています。

昨年度までは加西消防署にご協力いただき、消防署一日体験として署内で開催していました。しかし、今年度は開催場所を鶴野飛行場跡の備蓄倉庫とその南側とし、消防体験、車両の見学、防火服の記念撮影、煙体験、放水体験、ミニ救急車の展示等々の消防にまつわる体験、それから日本赤十字社による心肺蘇生、段ボールベッドや段ボールトイレの展示を含む救急講習、また白バイや交通安全啓発のラッピングトレーラーの展示が行われます。その他、女性団体連絡会に参画されている連合婦人会、泉会、更生保護女性会、商工会議所女性会、シニアクラブ連合会、交通安全協会婦人会など各団体様によるブース運営を行う予定としています。

申込受付は本日前午8時半から開始しましたが、12時過ぎには定員に達しました。ただ、見学していただくことはできると思いますので、皆様もしよろしければご覧いただきたいと思います。例年は庁内関係者として生涯学習課のみが運営に携わっていましたが、今年度は危機管理課、福祉企画課、ふるさと創造課にも依頼をし、それらの課の協力も得て当日運営を行います。また、女性団体連絡会の会員の全52名の

方々も関わってくださることになっており、参加者も含めると 200 名近い催しになると思われます。お忙しい中ではございますが、足をお運びいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

続いて、生涯学習相談業務開始とオープンイベントについて報告します。生涯学習課では、市民の皆様への学びの場の提供ということで、市民教養講座や公民館講座というように学習の機会の提供に取り組んでおり、こうした学習の機会に関する情報を広報誌「誘い」やホームページ等を通じて発信してきました。しかし、「個人的にこんな学習がしたい」、「いろいろな人とグループを組んで何か活動したい」、「現在グループを既に組んでいるけれど、最近何か少しグループとして元気がない」、「もっと人数を集めて活性化したい」などという悩みを持たれている方が多いと伺ってまいりました。本来、生涯学習課としてそうした相談事業にも取り組むべきところでしたが、なかなかできていない状況でした。

そこで、お手元のチラシを作成しました。このチラシには、表面に「あなたの学びたい、始めたいを応援します」、裏面には「やってみたい初めの一步を応援」として、それぞれのグループに関する相談、また個人で学びたいことがある時にはどうしたらいいのかという相談事業の内容を示しております。この相談事業を来年 1 月 15 日から、生涯学習支援ネットかさいにお願いして行うこととなりました。生涯学習支援ネットかさいは、前公民館長の泉さん、県内外で生涯学習アドバイザーとして活躍している松尾さん、商工会議所青年部や JC で活躍され、中央公民館登録グループ劇団「おおきな木」の代表高瀬さんが立ち上げられた団体です。

それに先立ちまして、「人気☆ワークショップの開き方」という催しが、1 回目は 11 月 20 日、2 回目は 11 月 24 日に開かれます。これはそうした「地域を元気にしたい」、「地域づくりに興味がある」、「趣味を生かした活動をしていきたい」など思っておられる方々に、ワークショップの開き方を学んでもらうための講座で、1 回目はセミナー、2 回目は実践講座として企画しています。2 回目の実践講座では、セミナーに申込まれた方々に、親子で作ろう「科学工作」や「飛ばして遊ぼう」といったクラフト作りのワークショップを実際に体験していただきます。今、募集をかけており、定員 12 名の中 9 名の申込みがありました。

さらに、「ワークショップ祭り&ハンドメイドマルシェ」というオープニングイベントがあり、ワークショップへの参加を呼びかけるチラシも作成しました。こうしたことに今まで取り組めませんでした。生涯学習支援ネットかさいの方々のお力を借り、開催できることになりました。11 月 20 日のワークショップ講座もそうですが、12 月 24 日のオープニングイベント「ワークショップ祭り&ハンドメイドマルシェ」のほうへ、教育委員の皆様にもお忙しい時期ではありますが足を運んでいただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

続いて、加西インター産業団地造成事業に係る中富条理遺跡現地説明会について報

告します。先ほど教育長の報告にもありましたが、10月29日土曜10時から、現在、開発に伴う発掘調査を行っている中富町加西インター産業団地4工区で、調査報告として現地説明会を開催しました。参加者約90名、関係者を含めると100名を超える方々にご参加いただきました。今回の調査面積は約1600立方メートルで、全調査面積の3分の1になります。その現地表面から約30から50センチ掘ったところから、堅穴の建物7棟、掘っ立て柱の建物3棟、溝が6条、土坑6基が確認されました。

先ほど教育長も言われましたが、とても浅いところから弥生時代の建物が出ており、普通はそういった跡の間に、この時代の後に建てられた建物跡が重なって残っているものだそうですが、今回中富で発見された遺跡は本当に弥生時代のもののみで、非常に珍しいというふうに学芸員が申ししておりました。多分、その後はずっと水田だったことで、遺跡が保存された状態になっていたのではないかと思います。もしご興味がありましたら、詳しくは資料を見ていただくか、調査に携わる当課の学芸員や埋蔵文化財整理室の調査室の学芸員のほうにお問合せしていただければと思います。

今後については、今回3分の1の調査が終わりましたので、順次残り3分の1の調査をしていきます。またそちらで発表すべき発見が出ましたら、機会を見て現地説明会を行う予定としています。

教育長からも次の説明がありました。少し付け加えますが、現地をご覧になった何人かの校長先生は「子どもたちに見せたい」と前向きに言われていました。今回は種々の都合で突然の発表となり、できませんでしたが、今後、説明会をするときは学校とも連携し、子どもたちにも例えば出前授業もしながら現地に行くなど、生まれ育った場所を実感してもらえることが大変重要で、本当に刺激になるのだと思っています。そういうこともやっていきたいと思っています。

教育委員からの意見と生涯学習課長兼市史文化財係長の回答

- ・1点ですが、子ども消防・防災体験は女性団体連絡会と連合婦人会の主催になっていきますけど、防災についてはこれから地域として力を入れていくべきだと思うので、来年でもいいですが、消防団を入れたらどうなんでしょうか。というのは、消防団は地域の20から50代ぐらいの方が中心となっているので、親子の催しとして、地域の消防や防災はこうしているというところを子どもたちに伝えていく必要があるのではないかと思います。もし良ければ消防団を入れたほうが、もっと活性化につながるのではないかと思います。私も消防団に入っていましたけど、消防団は火事だけでなく水道部の仕事もしていて、豪雨は今いつどこで起きるか分からないということもあり、そういうのも踏まえて土のうを作るなどの防災体験も入れてあげれば、もっと地域が活発になるのではないかと一つ思ったのです。どうですか。

(回答) ご意見ご提案ありがとうございます。今私の一存ではご回答できかねるのですが、ご提案は女性連絡会の場でお出しさせていただきます。もう来年度のことについては、このイベントが終わったらすぐに考えていかなければならないということで、前回の連絡会の会議でも皆さんから意見が出されていました。今回のご意見も検討させていただきますと思います。

・多分、消防団も快く引き受けてくださると思います。

(教育長の回答) ただし、消防団だとどんな形で入っていただくか検討が必要なので、今年はまだ消防署にご協力いただいていると思います。

・というのは、実は火事のと時第一対応で消火するのは消防団で、例えば私の経験上では夜中の家事が多かったので、消防団がぱっと集まって第一消火をしています。そういうことも踏まえると、子どもたちに何か見せてあげるだけでもいいので、ポンプや消火栓ボックスにホースをつなげて、こういうふうには消火するとか、それがなければ例えば水流からバケツで水をくんできて消火するといったような体験を子どもたちと一緒にすると、いざ火事だというときにも役立つのではないかと思います。これは一つの私の提案というだけです。

・このイベント自体は、女性団体が中心に主催する子どもの消防体験というかわいらしいものだと思うのです。もちろん教育委員さんの提案もとてもいいことで、いずれは災害のことを考えてもっと市民が一体となってやっていく必要はあると思います。ただ、そうなるにつれてかなり方向性や趣旨も異なりますし、イベントも大がかりなものになり、女性団体や生涯教育でできるものではないので、また違う方向で考えていただいたほうが、いいのではないかと思います。

・私の町ではこうした体験を1回やったことがあるのです。区長さんから消防団に「集まって、煙の中でこういうふうには消火するという実演をやるので、子どもたちを誘導してくれ」と言われたことがありました。実際に消防団が入って、子どもが中心に体験するような行事をしたことがあるので、提案しました。

(教育長の回答) それは地域一体となった行事だからできることだと思います。例えばこれをするとしたら、どこの地域の人を呼ぶのかということから始めることとなりますよね。

・最初から携わってきたわけではないんですが、私も今この委員会のほうに参加させていただいています。もともと女性としてできることをということで立ち上げられたと思いますけど、現在、女性男性というジェンダーの問題から女性が特化して何

かをするというのは、いささか私も考えるところがあります。でも、今ここでどうこう言うことはできないので、一応担当の方が持ち帰るということで。今度、そういう意味で手伝っていただけるのなら、イベントを組むのにやはり男の人の力があつたら助かるのかということもあると思います。それで、ご提案として、一旦持ち帰るということで受けさせていただけたら、どうでしょうか。

(回答) 先ほど申し上げましたように、ご提案いただいたことは非常にありがたいと思います。しかし、女性団体連絡会としての活動目的があり、その中の一つに消防や防災体験を入れさせていただいております。ですので、こうしたイベントの中でお力を貸していただけるのであれば、今沼澤委員さんが言われたようにどういう形で関わっていただくか一旦持ち帰らせていただきたいと思います。また、消防団と女性団体連絡会では、活動趣旨や活動目的が同じではないというところで、この場ですぐに回答はできないと思います。ご提案はありがとうございます。

- ・地域防災には力をいれていかなければいけないと思います。結構ほかの地域でも地域防災をされていて、昔と違って火事だけでなく気候変動による豪雨など、本当に防災訓練が必要になってきていると思います。これは各家庭でやらなければいけないので、ぜひ私も地域防災について提案を考えてみます。

(回答) 1点付け加えさせていただきますと、今回は子育て家庭への支援の一つとして子ども消防・防災体験を企画しましたが、もともとは家庭で小さなお子さんは転倒やいろいろなけがをするので、応急措置の仕方を学ぶ場がほしいという声やご要望がありまして、女性団体連絡会で救急講習をやってみたらどうかと始まったものです。それで、救急講習をするのであれば、もう少し広げて子どもたちに楽しんでもらえるブースや企画をしたらどうかということで、消防車の展示などという形で今回の企画を立てています。応急措置を知りたいというお母さんたちの声から企画したものであり、女性団体連絡会はそうした声を聞きながら子育て支援の活動しておりまして、中川委員さんが言われたとおり子育て家庭の親子に防災の意識を持っていただくことも、本当に重要なことだと思っております。今回ご提案いただきました地域防災や子育て家庭への関わり方というようなことは、また持ち帰って検討させていただきます。どうもありがとうございました。

- ・すみません。少し関係ないというか議事録からも話がずれてしまうんですが、この日は九会のふるさと創造会議として南側でペットボトルツリーを組み立てています。30人ぐらいで行きますが、できるだけ邪魔しないようにします。

もう一つは、公民館まつりについてです。教育長からも話がありましたが、3年ぶりの開催ということで、登録グループの方は本当に待ちに待って、久しぶりに披露できるという喜びが伝わってきて、とてもよかったです。また、そこに中

学生や北条高校生、善防まつりの場合は小学生や特別支援学校の子どもたちに関わってもらい、本当に地域と子どもたちがつながる生涯学習の場として、とても良い雰囲気になったと思います。善防まつりでは雨模様だったのが残念でしたが、今度は中央公民館まつりが残っていますので、私たちも楽しみたいと思っています。

それから、中富条理遺跡についてです。工業団地予定地の非常に浅いところから出てきたということで、素人ながら遺跡の保存を心配しています。大事な遺跡ですので残しつつ、本来の作業なり実質的なことを考えていただければと思います。その辺をよろしくお願ひしたいと思っています。

(回答) 今回の発掘調査は開発に伴う発掘調査となり、遺跡そのものについては記録保存ということになります。しかし、出土した遺物については順次整備作業を行っておりまして、皆様に公開できるようにさせていただきます。現地説明会の日にも、既に復元したものを何点か展示をさせていただきました。遺跡はその上にもう進出企業が決まっているということもあり、残念ながら壊れてしまうのは必須なんですけれども、それをきちんと記録するよう今整備しておりますので、ご理解いただければと思います。

- ・今のお話のようにこの遺跡は現物として残せないということでしたら、教育長も言われましたが、今ある間に小中学校の子どもたちに現物を見せてあげることも一つの教育ですので、そういうことも考えていただけたらと思います。日程の件ではいろいろ難しいでしょうけれども、そういうこともまたご検討いただけるといいと思います。よろしくお願ひします。

(回答) 次に調査する3分の2のところ、そういったことも調整していきたいと思っています。ご意見ありがとうございます。

- ・もう一つだけお礼をなんです、善防公民館まつりのお昼から、水田家にて青野原楽団に公演をしていただきました。その前には富合のプレジュールのところでもしていただいて、今回は水田家のところで独奏演奏をされました。結構、土間と弦楽器の音の響きというのは非常に良かったなと思います。生涯学習課長も司会や本当に多方面にいろいろな活動をしていただいて、ありがたく思っております。

総合教育センター所長

令和3年度加西市内の小中学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況について報告します。令和3年度全国の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」について、文科省によって集計された結果が10月末に発表されましたので、全国や県の状況と合わせて、昨年度の加西市の状況を報告いたします。

まず、暴力行為についてです。暴力行為とは、病院の診断書や警察への被害届の有

無にかかわらず、少し突き飛ばしたようなものも含め、全てを暴力行為の対象として集計しました。発生件数は、小学校で県平均を大きく上回っています。昨年度と同様、発達特性のある何人かの同一児童が思いどおりにいかない場面で、言葉で表現できず暴力に至ったケースが多くカウントされています。対教師暴力に関しても、特性のある子どものパニックを制止しようとした際に、教師に手が当たった状況もカウントしているため、このような数字となっています。ささいなことでも見逃さず指導した結果、多くの数字が取り上げられましたが、引き続き支援が必要な児童生徒への教職員の指導スキルの向上、また発達アドバイザー、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携した校内支援体制のさらなる充実を図る必要があります。

次に、いじめについてです。「児童生徒が心身の苦痛を感じているものは全ていじめ」という定義の下、積極的ないじめの認知を行っています。昨年度、加西市ではいじめ認知件数が前年度比マイナスになり、全国や県の平均を下回っています。一方、昨年度全国のいじめ認知件数は、これまでで最も多い件数となりました。

態様別内訳は「冷やかしかからかい、悪口」が最も多くなっています。基本的にいじめはコミュニケーションから派生するため、SNSを含むコミュニケーション力向上や集団生活のスキルを身につけることが必要です。昨今、問題となっているネット上での誹謗中傷やいじめは、学校での把握が非常に難しいので、教師がアンテナを高く張り情報が入ってくるような相談体制を取りながら、早期の段階から積極的に相談して解決できる体制を整えるとともに、保護者や家庭へ向けて、子どもの様子を気にかけてもらいネット利用について教育していただけるように、働きかけが必要だと考えております。昨年度も、重大事態に至った事案はありませんでしたが、小さいいじめからも重大事態につながる可能性があります。いじめを許さない集団の土壌が早期発見、早期対応を可能とすることを頭に置き、「いじめ見逃しゼロ」を目指して、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等と連携した体制づくりを進めていきます。

最後に、不登校についてです。「年間 30 日以上欠席した児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因や背景により、登校したくともできないあるいは登校したくない状況」を不登校として調査をしております。なお、ふれあいホーム等の学校外へ通っている生徒については、指導要録上出席扱いとなりますが、この報告では不登校の人数として入ります。加西市においても不登校は大きな問題であり、特に令和3年度は、小学校の増加傾向が心配な状況です。中学校では、令和2年度に全国や県に比べて低くなりましたが、令和3年度に再び高くなっております。

全国的な問題でもある不登校については、学校で起こっている問題としてだけでなく、複雑で多様化した家庭状況や現代病等の社会全体の問題として総合的に捉え、支援しなければならないもので、解決は非常に難しい状況にあります。学校としては、未然防止や早期対応の観点から、居心地の良い学校や学級づくりを引き続き努めていくとともに、児童生徒の課題や背景を受け止め、スクールカウンセラー、スクールソ

ーシャルワーカー、発達アドバイザー、ふれあいホーム等と連携した校内支援体制の充実、また個々の状況に応じた支援が必要になっています。また、学校復帰だけを目的とせず、中学校卒業後に引きこもらないように、地域福祉課等関係機関と連携を継続しながら、社会的自立のための切れ目ない支援体制の推進も必要です。

最後に、「暴力行為」「いじめ」「不登校」の全てにおいて、背後にいじめがないか危機感を持って検証していくとともに、支援が必要な児童生徒を含め社会全体でコミュニケーションの方向が変化している今、コミュニケーション能力の向上やよりよい人間関係の構築が求められています。また、令和2年度まではコロナ禍の影響による「暴力行為」「いじめ」「不登校」の大きな変化は見られませんでした。様々な課題を抱える不安定な児童生徒や経済的、福祉的に困難な家庭は多くなっており、今後も支援が必要な状況が進むと考えられます。学校では支援が難しい状況が増えており、子どもや保護者を孤立させないため、地域や福祉関係機関との連携が今後より重要になると考えております。

教育委員からの意見と総合教育センター所長の回答

- ・暴力行為、いじめ、不登校については、学校の先生やソーシャルワーカーさん、発達アドバイザーさんの連携体制で、これだけ一生懸命にいろいろと取り組まれてきたにもかかわらず、やはりどうしても不登校がなかなか減らないという結果が出ているので、総合教育会議でも話された校内フリースクールというのを考えてもいいのではないかとということで、私もいろいろと調べてみました。

東京の NPO 法人「登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク」という団体さんが、毎日新聞を通じて不登校の子を持つ保護者へのアンケートのデータを出されていました。保護者がどこにアドバイスを求めて助けになったかという質問では、フリースクールが 86%であり、一方、これはあくまでもデータなのですが、学校の先生、校長、教頭、主任の先生と答えたのは 40%前後というデータが出ていました。それで、先生が頑張って学校に戻してあげないと考えるのは当然のことかもしれませんが、そろそろ不登校の子どもたちの居場所を見つけてあげなければいけないと思います。これは私の主観ですけど、子どもたちはそういう居場所さえ見つけられれば、どこでもしっかり勉強もやっていけると信じていますので、このデータを見てフリースクールについて調査していかないといけないと思いました。

また、YouTube でいろいろなフリースクールを見ていたら、愛知県のフリースクールだったと思いますが、その学校だけかもしれませんが、伸び伸びとされているというのがあったので、一度そういう対策でやってみたら効果が出てくるんじゃないかと思いました。これは提案になってしまうかもしれませんが、私も教育委員として視察できるのであれば、そういったフリースクールを見て、みんなで考

えて対策していかないといけないと思います。それで、私から教育委員として少し提案をさせていただきます。

私も4年間教育委員をさせていただいて、先生を初めとする体制で一生懸命されているのになかなか効果が出ていないというのなら、大変だとは思いますが、やはり新しい手を打っていかねばいけないのではないかと思います。それで、フリースクールも含め少し調査していったほうがいいのではないかと思います。それで、提案させていただきます。よろしくお願いします。

(教育長の回答) 教育委員会で教育委員さんも一緒に視察に行くというのはいいことだと思いますので、検討してみてください。

- ・不登校についてきちんと分析をしていただいております。昨年度、不登校の子どもたちは全体で85名いたということで、その子どもみんなが一つの問題ではなくて、1人1人それぞれが様々な問題を抱えているからこそ、不登校に対応するのは本当に難しいことだろうと思います。ここに書かれていることで少しお尋ねしたいのですが、分析の中の「別室登校を望む児童生徒がいても、対応しきれない現状もあり」と書いてあるのですが、ここについて説明していただけますか。

(回答) ありがとうございます。不登校生の状況は、本当に様々でありまして、家族にも会えない子どもや家からは出られない子ども、また学校には行けないが外には出られる子ども、登校はできるけれど人数の多い教室にみんなと入りたくないという子ども等もいます。また、中には教室に入ってみんなから見える席は駄目だけれど、後ろの席なら大丈夫など状況は様々です。そして、誰もいない一人の教室なら登校できるという児童生徒から保健室等の別室でと望む声があった場合、学校としては最大限応えようとするのですが、対応できない状況があります。

というのは、ご存じのとおり教員の数が非常に少ないということです。例えば小学校ではほとんどの教員が授業を行っており、職員室には、ほとんど教員がいない状況です。例えば不登校生が休み時間ではなく授業中に登校すると出迎えることのできる教員はほとんどいません。たとえ別室登校を許可して教室に入ったとしても、一緒に勉強を見てやれる教員がいないこともあります。中には自傷行為等をする不安定な児童生徒もおり、そういった児童生徒から目を離さないよう誰かがつくようにしなければなりません。ニーズがあっても、そうなったとき学校としてはなかなか対応し切れない状況で困っているところです。

その辺りを考えると、もし先ほど言われた校内フリースクールが立ち上がり、そこに専門の支援員がつけば、この状況にある児童生徒は救われるだろうと考えております。ただ、言いましたように例えば85人の不登校生がいれば、これはその子のわがままではなく、本当にその子の思いや状況が違うので、不登校への対応は85通りあるという感じです。校内フリースクールを別室につくったからといって、果た

して何人来るのか、思っているよりも少なく数人しか来ないという可能性もあります。大きな市町で特例校や校内フリースクールがよくできるのは、大きな町では千人単位で不登校生がいて、それに対するニーズに応える場所をつくり 40 人ぐらいの希望を受けるといった感じですので、今加西市に 85 名の不登校生がいてこの対策を行ったとき、小中学校や校区で分けられると果たして何人のニーズにヒットするのかということとは分かりません。でも、少しでも、何人かであっても、不登校生のニーズに応えられるのであればという思いで、一つの方向性として考えています。

ついでに追加させていただきますが、以前にも言いましたように加西市では不登校は増えているのですが、実はほかの市町と比べると問題行動が少ない傾向があります。専門家の方々によれば、心にいろいろなことを抱えている児童生徒は、問題行動に出るタイプと不登校など引きこもってしまうタイプの二通りに分けられるようで、加西市はほとんど問題行動が起きない分、不登校に出る傾向が強くなっているのではないかとされています。問題行動は本当に少ない状況になっており、問題行動と不登校の件数を足すと、加西市は比較的他市町に比べて悪い状況ではないと言われています。今後その辺りも含めて検証をしていかなければならないとも聞いております。

- ・ 不登校で長い間休んでいたとしても、子どもたちが「別室やったら行けるわ」という考えになって望んだときこそが、一番のチャンスだと思うのです。そういう考えになってくれたときに、「じゃ」って受入れ態勢を取ってあげられることが、その子にとって一つの救いになると思います。各学校に分かれて別室登校の場所をつくると考えると、いつ来るか分からない子どもに対応する先生を常時スタンバイさせておくことは、なかなかできないという問題点はあると思いますが、今後どういう方法で、例えば中学校は一応この場所というふうに考えていければと。登校することが全てではないのですが、そういうふうに子どもが少しでも人と接することができるチャンスが来たとき、できるだけ手を差し伸べられる環境を今後つくっていきたいと思います。それについてはまたよろしく申し上げます。
- ・ まず、中学校において出席日数 10 日以下の子どもたちが、一昨年より 5 人減ったということは、先生方が子どもたちや保護者と真剣に向き合ってくださった結果であり、良い傾向が出ているのだと思います。逆に、小学校において 10 日も登校できなかった子どもたちが、一昨年のゼロから 3 人と増えてしまったことは課題ではありますが、センター所長も言われていたように子どもたち 1 人 1 人は状況や家庭も違うので、どのように子どもたちと関わるのがその子にとって一番いいのかということだと思います。とにかく学校に来いということではなくて、社会的自立という観点でいろんな専門家に関わっていくことが、本当に大事なことであろうと思います。

あと、教育長も話されたように加西市は給食を無償化しており、当然不登校の子どもたちも給食を食べる権利は持っているわけで、そういうことを保障するためにも何かできればと。不登校の子どもたちは特に昼間不安定で、出にくい傾向があります。でも、子どもが家に帰る夜の時間になると元気になったりするのです。それで、少しでも昼間に出やすいような雰囲気や居場所をどこかにつくれないかと思えます。未来型児童館については、学校に行けない子どもたちの居場所づくりということも絡めて何かアイデアが出せないか、私も一度考えてみたいと思っているところです。それには、子どもたちにとって良い居場所になるところで、例えばパソコンや ICT を使うのが好きな子どもならそういう居場所も可能ですし、未来型児童館も含めていくときには、学校との連携も取りながら考えていただきたいと思った次第です。

- ・不登校は教育センターが対応されているのでしょうか。その支援や対応が仕切れないというのはどういうことかなと思ひまして、どこがどのような対応をされているのでしょうか。

(回答) もちろんまずは学校が対応しています。例えば家庭訪問や家庭連絡。また、別室登校というのは学校に登校しますので、丸1日ではなくても可能な時間帯の登校や、部分的な別室登校にも学校は対応しています。

- ・では、センターでは不登校のお子さんを扱っていらっしやらないのですか。

(回答) 学校で対応できる児童生徒は学校で支援しますが、学校に通えない不登校生については、希望すればセンターにあるふれあいホームに通室しております。それから、センターにいるスクールソーシャルワーカー2名は、不登校の保護者や児童と連絡が切れないように家庭訪問をする等、つながるように努めています。

- ・センターのふれあいホームではどのような支援をされているのですか。

(回答) 来る時間や帰る時間は児童生徒によりばらけていて、子どもたちは自分にとって可能な時間に利用します。時間割は大体組まれています。学習は、基本自主学習になっており、希望があれば Chromebook を持ってきて学校の授業につないでいる児童生徒もいます。それから、不登校生にはコミュニケーションや体験学習が大事で成果があると言われていいますので、そうしたことを重視しようということで、今はコロナで控えていますが、調理実習、畑で農作物を作ったり収穫したりもします。また、最近復活したハイキング、地域の方をお願いして梅の収穫、小野市の施設へ陶芸体験に行ったこともあります。さらに、学校と連携をし、少しでも学校に行かせる機会にもなるので、富田小でのヨガ体験に参加させていただき、その行き帰りにはバスに乗る練習をしました。このようにいろいろなプログラムを組んで行

っています。

- ・何人の先生で対応されているんですか。

(回答) ふれあいホームの支援員は2名です。

- ・お子さんは何人まで受け入れられているのですか。

(回答) 机は20名弱分ありますが、通ってくる子どもによってきちんと座れる児童生徒もいれば、どこかへ飛び出してしまう児童生徒もいます。また、不登校生ですから、登録している児童生徒全員が毎日通ってくるというわけではなく、午前か午後だけとか、先生と約束した日だけ来るといったいろいろな状況があります。それで、現在15名ほど登録していますが、15名マックス来て埋まるというような時間帯はありません。

- ・それで2名の先生で大丈夫なんですか。飛び出す子どもさんがいたら、それでは対応し切れませんか。

(回答) たくさん来たときは大変難しい状況です。飛び出してしまうようなときは、臨時的にセンターの残っている者、発達プログラムなどの支援員などが1名出て、助けるようにしております。

- ・それは黙ってられない状況だと思います。2名で対応するのは無理だということを教育委員かどこかに言われているのですか。

(回答) 確かに2名で対応するのが厳しい状況はありますが、例えば学校の支援学級などの教師に対する児童生徒数の枠を考えますと、不登校生20名弱に対して2名でも何とか対応しようと考えています。ただ、先ほどから言われている校内フリースクールという対策を考えていく上で、もし校内フリースクールをつくるのであれば、現在のふれあいホームの形も変えていかないといけないかと考えています。そうなった場合、2名の対応では難しいと考えています。

(教育長の回答) 不登校の問題については、私が教育長になってから基本的にずっと問題意識をもって注視してきて、ずっと心を痛めています。具体的な対策を現場でも相当考えて、視察に行ったりもしているのですが、なかなかこれといった新しい方策が何も出てこないのです。それはこの不登校という問題が、それだけ複雑で簡単にいかないものだという事であると思います。ではあっても、加西市教育委員会として、不登校に対してこのように取り組んでいますということはきちんと表明しないとイケない。そうしないと、不登校のお子さんを持つ保護者にとって、希望がないままになってしまうと最近強く思っています。それで、先ほど言われた給食

の問題も含め、ぜひ前向きに具体的に取り組みたいと思っております。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

なし

1 3 今後の予定について

- ・令和4年第12回定例教育委員会 12月19日(月) 14:00～5F大会議室
- ・令和5年第1回定例教育委員会 1月25日(水) 14:00～5F大会議室

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和4年11月16日

出席者

(出席者署名)